

住民主体のまちづくり

No.61 2019. 2

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 新春書初め大会

車尾地区青少年育成会の主催による新春書初め大会が、1月7日（月）午後1時から車尾公民館で行われました。この大会は子どもの書写教育の向上と伝統文化の振興発展に寄与するものです。

子どもたちは、通常の手紙の授業で使用する筆や半紙とは異なる大きな用具の扱い方に戸惑いながらも、一字一字に全身全霊を傾け練習を重ねていきます。

国語辞書などには、書き初めは古来より毎年正月二日にその年の恵方に向かい、おめでたい意味の詩歌などを書いてきたとあります。その名残もあって、現在でも年が明けると全国各地で数多くの書き初め大会が開催され、我が国の伝統的な行事の一つになっていることは周知の通りです。

さて、車尾地区では小学生による定員20名で行われまし

た。講師は、車尾公民館書道同好会の講師である後藤文平さん



です。小学校の事前に対象者の名前入り手本を書いていただき、一人ずつ貰った子どもたちは大喜びで、やる気満々で筆を走らせます。

講師は、個々の筆使いを楽しく冗談を交えて指導されあつという間の2時間が過ぎました。



■ とんどさん

去る1月14日（月）早朝から車尾各地でとんどさんと言う行事が行われました。

「とんどさん」とは小正月（こしょうがつ＝1月15日）の行事で、正月の松飾り・注連縄（しめなわ）・書き初めなどを家々から持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やすという、日本全国に伝わるお正月の火祭り行事です。民俗学的な見地からは、門松や注連縄によって出迎えた歳得神を、それらを焼くことによって炎と共に見送る意味があるとされる。歳徳神（としとくじん、とんどさん）は、陰陽道で、その年の福德を司る神です。年徳、歳神、正月さまなどとも言います。

お盆にも火を燃やす習俗がありますが、こちらは先祖の霊を迎えたり、そののち送り出す民間習俗が仏教と混合したものと考えられています。

国民の祝日成人の日が1月15日から1月の第2

月曜日に変更されたことに伴い、本地区でも1月の第2月曜日に実施されています。自治会によっては、とんどさんの実施当番を班単位で決めて行う所が多いようです。また、



この行事の後に班単位の新年会を行う自治会もかなりあります。

とんどさんが、班単位の絆を深める機会になれば、防災・福祉・子育て・環境など地域づくりの協働体制に活かせると思います。

自分たちのまちは自分たちで（ つくる つなぐ つづける ）